

2020年第1四半期 国内サーバー市場動向を公表

Japan, 2020年7月2日 - IT専門調査会社 IDC Japan 株式会社 (所在地: 東京都千代田区九段北1-13-5、代表取締役: 竹内正人、Tel代表: 03-3556-4760) は、2020年第1四半期 (1月~3月) の国内サーバー市場動向を公表しました。2020年第1四半期の国内サーバー市場全体の売上額は1,401億円で、前年同期から1.6%減少しました。出荷台数は11万9千台で、前年同期から7.8%減少しました。

2020年第1四半期の国内サーバー市場は、売上額が前年同期比でマイナス成長となりました。製品別では、x86サーバー (注1) とメインフレームが、前年同期比で2桁のマイナス成長となりましたが、その他のサーバーは、スーパーコンピュータ「富岳」の出荷 (注2) が牽引し、3桁のプラス成長となりました。「その他のサーバー」とは、「ARMサーバー」、「RISCサーバー」、「IA64サーバー」、「ビジネスサーバー」の総称です。

x86サーバーは、売上額が前年同期比11.3%減の1,012億円で、出荷台数は、前年同期比7.7%減の11万7,900台でした。なお、Standard Server (注3) は、売上額が前年同期比17.4%減の847億円、出荷台数が同13.3%減の9万7,800台でした。Custom Server (注3) は、売上額が前年同期比44.1%増の152億円、出荷台数が同35.3%増の1万9,400台でした。Standard Serverは、ITサービス、ヘルスケア、流通、通信向けの大口案件などがありましたが、前年同期にあった流通、製造向け大口案件などの反動で、売上額、出荷台数共に2桁のマイナス成長となりました。また、昨年後半 (2019年第3~4四半期) にあった、Microsoft Windows Server 2008 サポート終了 (2020年1月) にともなうサーバー更新需要は、今年1月にはほぼ頭打ちしたとみられ、Standard Serverのマイナス成長を補う規模にはなりません。Custom Serverは、クラウドサービスベンダー向けの出荷増加に加え、ITサービス向け大口案件があり、売上額、出荷台数共に大幅なプラス成長となりました。

メインフレームは、売上額が前年同期比40.3%減の121億円でした。官公庁、金融、ITサービス向けの大型案件がありましたが、前年同期にあった金融、製造、公益向け大型案件の反動で2桁のマイナス成長となりました。その他のサーバーは、売上額が前年同期比235.2%増の267億円でした。官公庁、金融向けの大型案件がありました。特に、理化学研究所計算科学研究センター向けの「富岳」が、その他のサーバーの大幅なプラス成長を牽引しました。なお、「富岳」を除く、その他のサーバー売上額は、前年同期比33.5%減の53億円でした。

COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) の流行による国内サーバー市場への影響は、x86サーバーでは少なからず発生した一方、メインフレームやその他のサーバーでは殆ど発生しなかったとIDCはみています。x86サーバーでは、サプライチェーンの断絶による部材 (プロセッサーやマザーボードなど) の調達が困難となり、サーバー製造に支障を来したケースが見られました。一方、メインフレームやその他のサーバーでは、このような影響は特に見られませんでした。

IDC Japan エンタープライズインフラストラクチャリサーチマネージャーの[下河邊 雅行](#)は、「x86サーバーは、Standard Serverの売上額が、前年同期比で2桁の大幅減となった。主としてデータセンター用途で使用されるラックサーバーの売上額が、1割強減少したこ

とが大きな要因である」と、述べています。

カンパニー別売上額では、富士通が首位を維持しました（参考資料）。次いで、NEC、日本ヒューレット・パッカー（HPE）、デルテクノロジーズ（Dell Technologies）、日立の順でした。出荷台数は、NECが首位を奪取しました。次いで、富士通、HPE、Dell Technologies、Lenovoの順でした。

注1：「x86サーバー」は、x86アーキテクチャのプロセッサを採用しWindows、Linuxなどオープン系のOSを搭載したサーバーです。Itaniumプロセッサを搭載したサーバーやベンダー独自OSを搭載したサーバーはx86サーバーに含めません。また、「x86サーバー」と「メインフレーム」以外のサーバーを「その他のサーバー」として記載しています。

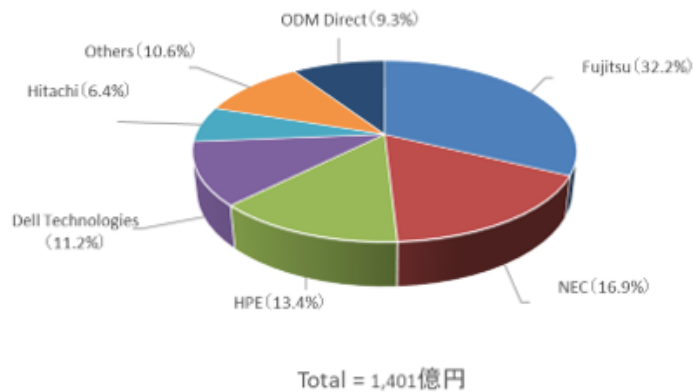
注2：「富岳」の売上額は、公知の情報に基づいたIDCの推定値を計上しており、2020年第1四半期は214億円と推定しています。出荷台数は、過去にあった「京」の出荷と同様に、売上計上単位で1台とカウントしています。なお、「富岳」は、サーバーに搭載しているプロセッサ種別から、IDCでは「ARMサーバー」に分類しています。「ARMサーバー」は、ARMホールディングスが管理するプロセッサを搭載しているサーバーです。

注3: x86サーバーは、Standard ServerとCustom Serverに分類されず。Standard Serverとは、ベンダーが公開するカタログに掲載されたサーバーで、標準的なマザーボードや筐体をベースとしたサーバーです。Custom Serverとは、主にクラウドサービスベンダーが、ODM Directなどから調達するサーバーで、マザーボードや筐体が、特定の顧客や用途向けに設計されたサーバーです。

< 参考資料 >

2020年第1四半期 国内サーバー市場 カンパニーシェア【売上額】

Figure 1



Source: IDC Japan, 7/2020

IDC is a subsidiary of IDG, the world's leading technology media, research, and events company. Additional information can be found at www.idc.com. All product and company names may be trademarks or registered trademarks of their respective holders.

For more information contact:

jp-Press Japan

jp-press@idcJapan.co.jp

+81-3-3556-4768